

陳 情	受 理 番 号	46	受 理 年 月 日	令和8年1月20日	付 託 委員会	教育福祉
件 名	高校生部活動における県外遠征費補助金制度拡充について					

みだしの件について、別紙のとおり陳情いたしますので、よろしくお願
いいたします。

件 名：高校生部活動における県外遠征費補助金制度拡充について（陳情）

陳情の趣旨

那覇市の高校生が全国大会・九州大会等へ出場する際の県外遠征費用に対する補助金制度を早急に拡充し、離島ゆえの地理的・経済的なハンディを解消することで、意欲ある高校生が全国レベルを経験する機会を充実させ、未来のリーダー育成を後押ししてくださるよう陳情させていただきます。

陳情の理由

1. 陳情の背景となる私たちの活動と問題提起

私は那覇市内外の高校 11 校、総勢 112 名で活動する「国頭村を助けよう！高校生ボランティアの会」の代表を務めています。これまでに街頭募金で集めたお金で、県北部豪雨で被災した国頭村に合計 125 万円、台風で被災した大東島に 24 万円を寄付いたしました。現在は東村と大宜味村への支援に向けて活動しています。

この活動を通して私は、「困っている人を見過ごせない」という気持ちと「ゆいまーる」の力が大切だと学びました。この想いが、次に述べる部活動の遠征費の問題にも繋がっています。

2. 沖縄の高校生が直面する「全国への二つの壁」

(1) 離島ゆえの地理的なハンディキャップ

沖縄県は離島です。普段の練習試合や合宿で県外に行くのにも、他県の生徒とは異なり、必ず高額な飛行機代や滞在費がかかります。そのため、沖縄の高校生は、全国のライバルと切磋琢磨する経験を積む機会が限られています。せっかく九州大会や全国大会への出場を決めた場合でも、私たちには飛行機代と宿泊費という高額な費用がセットでついてくるため、部活動の環境としては大きなハンディがある状況です。

(2) 重い経済的負担と機会の制限

最近、コンビニやスーパーなどで「県外遠征の趣意書」が貼られた募金箱を本当によく見かけます。私たちが街頭募金で活動場所を調整する中で、遠征費を自分たちで集めなければならぬ部活動が非常に多いことを知りました。

一方で、せっかく県代表に選ばれながら遠征費が高すぎて辞退せざるを得ないといった声も多く聞こえます。私の周りでも遠征費の負担を理由に九州大会を辞退した友人がいて心が痛みました。

内閣府のデータを見ると、沖縄の子どもの相対的貧困率は29.9%で、全国平均(13.5%)の2.2倍、全国ワースト一位です。この経済的貧困と、遠征費補助の不足という「ダブルパンチ」により、全国レベルを経験する機会が制限される高校生が増えています。

3. 現在の制度における那覇市在住高校生支援の状況と県外他市町村の支援の状況

以前、「市長への手紙」月間にこの件について那覇市長にお手紙したことがあります。それに対して、那覇市教育委員会教育長様より「現状としては、まずは多くの義務教育の小中学生を対象にすることを優先しており、高校生を対象にすることは厳しい状況となっております。」とのお返事をいただきました。

上記方針により那覇市では九州大会、全国大会への補助金はありませんが、私が調べた範囲では県内市町村によっては例えば以下のような補助があるようです。

- ・名護市：全国大会のみ飛行機代半額補助、宿泊代4割補助。
- ・うるま市：県代表1位と2位のみ全国大会、九州大会ともに保護者負担分を補助（上限5万円で宿泊代は一日5千円まで）
- ・金武町：全国大会、九州大会ともに保護者の負担分の75%補助。
- ・国頭村：飛行機代、宿泊費を全額補助（村長の政策で昨年度からスタート）
- ・大宜味村：九州大会以上の県外大会派遣は5万円、海外大会は10万円補助。
- ・東村：九州大会は8万円、全国大会は10万円、海外大会は20万円補助。
- ・今帰仁村：九州大会、全国大会ともに飛行機代、宿泊代の5割補助。
- ・本部町：町の指定条件に該当する大会は5割補助。選手だけでなくマネージャー、監督、コーチにも補助あり。
- ・宜野座村：九州大会以上は高校生、大学生、専門学校生に一律3万円。一般は1万円補助（何度でも申請可）
- ・嘉手納町：高校生以上（一般も含む）に2万円補助。一回限りの申請だが、勝ち進んだ場合は再度申請可。
- ・中城村、西原町：九州開催は2万5千円、関東は3万5千円、北海道は4万5千円補助。
- ・南風原町：飛行機代半額補助。
- ・南城市：県内離島は1万円、九州大会は2万円、全国大会は3万円補助。
- ・北谷町：県外大会は1万円補助（1年に2回まで申請可）
- ・読谷村：村の指定条件に該当する大会は高校生以上（一般も含む）に2万円補助。
- ・与那原町：部活動に加入していないクラブチームのみ派遣費を補助。
- ・伊江村：企業や個人から寄付金を募って激励金として補助。
- ・恩納村：飛行機代、交通費（電車、タクシーなど）、宿泊費をほぼ全額補助。
- ・沖縄市：問い合わせが多いため、現在前向きに検討中。

このように、那覇市では義務教育が終わる中学が一つの区切りとなり、高校生への支援が県内他市町村と比較しても手薄になっている現状がございます。

ちなみに、浦添市、宜野湾市、糸満市、豊見城市、北中城村、八重瀬町は那覇市と同じように高校生への補助金が用意されていないとのことでした。

4. 部活動の経験は「沖縄の未来への確実な投資」

部活動で培われる精神力、体力、チームワーク、リーダーシップといった資質は、沖縄の未来を担い、全国・世界を引っ張っていくリーダーになるために不可欠な要素だと信じています。この夏、沖縄尚学高校野球部が、チームワークと粘り強いプレーで甲子園大会を優勝したように、沖縄の高校生の日々の練習量は全国屈指であり、私たちには全国で戦う力があります。全国レベルを若いうちに経験することは、私たちの視野と可能性を大きく広げてくれるはずです。那覇市におかれましては、沖縄の高校生の置かれている特別な状況をご配慮いただき、高校生の県外遠征への補助金制度を拡充していただきたくここに陳情いたします。これは単なる補助ではなく、那覇市・沖縄県の未来を創るための、意味ある「投資」になると確信しています。那覇市議会議長様、議員の皆様、どうぞ私たち那覇市在住の高校生のためにお力をお貸しください。よろしく願いいたします。